新春座談会

碑文谷警察署長×区長×目黒警察署長

安心して暮らせるまちづくりを目指して

治安が良いというイメージを持つかたが多い目黒区ですが、区と目黒署・碑文谷署が連携し協力体制を整え、日々、犯罪・事故防止に取り組んでいます。令和5年を迎えるに当たり、昨年の取り組みを振り返るとともに新年に向けた思いを聞きました。

問広報課区報係（☎5722−9486、FAX5722−8674）

碑文谷警察署長
林 哲也
広島県生まれ。尾久警察署副署長、地域部通信指令官を経て、令和4年2月、第57代碑文谷警察署長として着任。

目黒区長
青木 英二
目黒区原町生まれ。目黒区議会議員、東京都議会議員を経て平成16年、目黒区長に就任。現在5期目。

目黒警察署長
伊藤 秀輝
山形県生まれ。池上警察署副署長、大島警察署長を経て、令和3年2月、第71代目黒警察署長として着任。

――まず、両署が管轄しているエリアの特徴を教えてください。

伊藤　目黒署が管轄する区の東部には、約8万世帯、13万8千人の区民のかたが在住されています。管内には交番（※1）が7カ所、駐在所（※2）が1カ所、地域安全センター（※3）が3カ所あり、地域の安全・安心を守る拠点となっています。

近年、新型コロナウイルスの影響でイベントなどが中止になっていますが、以前のお花見シーズンには目黒川沿いは、多くの花見客でにぎわいを見せており、それに伴い当署では大規模な交通規制や雑踏警備を実施していました。

※1 交番＝複数の警察官が24時間体制で対応
※2 駐在所＝原則、1人または2人の警察官が駐在所に居住しながら地域の安全を守る
※3 地域安全センター＝昼間帯を中心に、元警察官の地域安全サポーターがボランティア活動などの交流場所として勤務

林　碑文谷署は、祐天寺駅と学芸大学駅との間を走る補助第26号線の南側を管轄しています。世帯数は約7万7千世帯、人口は約14万人。管内には交番が9カ所、駐在所が1カ所、地域安全センターが2カ所あります。

管内は比較的平穏な地域で、事件・事故に関しては多くが駐車に関する苦情や物件事故（死傷者はなく、物的損害のみの交通事故）で、大きな犯罪は発生していません。しかし、高齢のかたが特殊詐欺に遭われる事件が起こっていて、特殊詐欺防止に署員一丸となって取り組んでいます。

――次に区長に聞きます。防犯・防災に対する区の取り組みや、警察との関わり・連携はどのようなものでしょうか？

青木　区民の安全・安心を守る上で一番重要なのは、両警察署と情報共有をすることです。この情報共有のために、平成15年度からの20年間で、警視庁から延べ10人の「生活安全課長」を派遣していただきました。皆さん任期は2年で、両警察署と区とのパイプ役を担っていただいています。

目黒警察署　大正14年10月1日創設
シンボルマークは「駿馬」「目黒」の由来である駿馬に、目黒の「目」と住民との和（輪）を合わせてデザイン化。

また、昨年の4月1日から成人年齢が18歳に引き下げられたことを踏まえ、若いかたが消費者トラブルに巻き込まれないよう、チラシを配布するなど警察と協力して取り組んでいます。さらに、平成30年10月23日には両警察署と「児童虐待の未然防止と要保護児童の早期発見に向けた情報共有等に関する協定書」を結ぶなど、スムーズな連携を図っています。

この他、両警察署から交通規制などについての指導をいただきながら、区内の道路の維持管理も行っています。

――昨年の取り組みを振り返っていただきたいと思います。まず、特殊詐欺対策についてはいかがでしょうか？

伊藤　特殊詐欺対策は、最重要課題として注力しています。令和4年11月末日現在、両署合わせて64件、約1億1,000万円の被害額を認知しています。令和3年の同時期と比較すると件数・額ともに減少していますが、依然として高止まりの状況です。両署では、高齢者のお宅への訪問をはじめ、車を使っての広報や各種キャンペーンを行うなど、被害防止啓発に力を入れてきました。

昨年9月には、これまでコロナ禍で開催できなかった「地域安全目黒区民のつどい」を、区などの協力をいただき、3年ぶりに開催できました。その際は、特殊詐欺の手口等を、寸劇を通して来場者に知ってもらうなど、被害防止に向けた呼び掛けを行いました。

青木　区職員を名乗る還付金詐欺なども多く、大変憂慮しています。特殊詐欺の電話は、約95%が固定電話にかかっています。区は、犯罪に使われたことのある電話番号を警察から情報提供していただいています。そして、この番号からかかってきた電話をブロックするトビラフォンを、区民の皆さんにこれまで250台ほど提供しています。特殊詐欺電話は、全国で月平均3.6回くらいなのに対し、区は月平均6.5回と倍になっているため、犯人グループなどから狙われている区であることを皆さんに認識していただきたいと思います。

――続きまして、交通事故への対応を教えてください。

林　区内では、令和4年11月末日現在で約610件の人身事故が発生しています。令和3年の同時期と比較すると約160件の増加です。また、令和4年の死亡事故は3件で、令和3年の同時期に比べて3件の増加となっています。

自転車による事故が多いことが特徴で、区では交通事故全体の約55%となっています。原因は、電動自転車が増えていることが考えられます。普通の自転車に比べてスピードが出やすく自転車自体が重いため、バランスを崩して転ぶ単独事故もあります。また、自転車は車両であるということを知らないかたが多いのでは、という懸念もあります。

警察としては、自転車の安全な乗り方に関する広報啓発活動のほか、交通違反の指導・取り締まりを強化しています。

青木　区は、自転車に関して2つの取り組みをしています。1つ目は皆さんに自転車保険に入っていただくこと。これは、大きな事故で裁判になった場合に多額の賠償金額になることがあるからです。2つ目はヘルメットの着用です。事故で亡くなったかたの71%が、頭部外傷が致命傷となっていること、ヘルメットを着用していないと着用している場合の2.5倍ほど致死率が上がるというデータがあるためです。昨年、区ではヘルメットの購入費用の補助を実施しました（現在は終了）。

――その他、防犯の観点から、区民の皆さんにお伝えしたいことはありますか？

伊藤　コロナの感染が拡大していた間は、防犯に向けた啓発活動が難しく、もどかしい思いでしたが、徐々にできるようになってきました。

林　多くのかたに活用していただきたいものとして防犯アプリのデジポリスがあります。これは、地域の防犯に関する最新情報を提供するほか、痴漢撃退機能（防犯ブザー）、スマートフォンの位置情報サービスを利用した子どもの見守り機能など、さまざまな防犯コンテンツが搭載されています。

碑文谷警察署　昭和13年1月20日創設
シンボルマークは「鷹」「江戸時代、将軍の鷹狩り場であり、HIMONYA POLICEのイニシャルを合わせてデザイン化。

青木　デジポリスなどデジタルツールの活用に向けて、区もシニア向けにスマートフォンの使い方の講習会を開催するなど、サポートをしていきます。

――では次に、防災についての連携などについてお聞かせください。

伊藤　気になっているのは、都内で起こり得る大地震です。警察署の庁舎が古いこともあり、もしものことがあれば拠点を変えるなど、災害時でも区と警察とがうまく協力できるよう訓練をしています。

青木　災害時に避難所を開設した際には、犯罪が起きないよう暗い所や死角を作らないことが重要です。避難所の防犯対策などは警察との連携が必要で、防災対策の会議には両警察署にも出席いただいています。また、コロナ禍において大規模な防災訓練が行えていませんが、参加人数を絞った小規模な訓練は行っています。その際には、警察、消防の皆さんにも参加いただくとともに、大規模な訓練の際には、自衛隊にも協力をいただいています。

――最後に、令和5年に向けての抱負や目標をお願いします。

伊藤　区内では、還付金詐欺の被害が多発しています。これを抑止するためにも、「ストップ！ATMでの携帯電話」という合言葉を皆さんに覚えていただきたいと思います。ATMコーナーで携帯電話を使用しているかたがいたら、積極的に声を掛けていただきたいです。また、ためらうことなく110番に通報してください。

区民の皆さんにとって、本年が大きな事件・事故なく素晴らしい1年となりますよう、目黒署員一同、全力を尽くしてまいりますので、引き続きご協力・ご支援のほど、お願いいたします。

林　1件でも特殊詐欺被害を減らし、そして、1件でも交通事故を防止できるよう、取り組んでまいります。とりわけ、区の課題でもある自転車による交通事故を減らすため、安全な乗り方指導や広報啓発活動を強化するとともに、交通違反の取り締まりにも努めてまいります。

青木　区民の皆さんにおかれましては、昨年も区政発展にご理解・ご協力をいただき、ありがとうございました。昨年も、一昨年に引き続き、コロナの影響を色濃く受けた一年でした。さらに、2月にロシアによるウクライナ侵攻が起きました。現在、区には7世帯11人のウクライナのかたが避難を余儀なくされています。区内外の皆さんのご寄付をもとに、区としても可能な支援をしております。

今年も皆さんの安全・安心に取り組んでいきたいという思いを込め、短歌を詠みました。

コロナ去り　平和が来たる　ウクライナ
年の初めの　区民の願い

この願いを区民の皆さんが実感として感じられるように、28万区民が乗船する目黒丸の船長として、今年もベストを尽くしてまいります。区民の皆さんのご支援をお願い申し上げ、新年のメッセージといたします。